

東京都議会 特別予算

# 福祉・暮らしに冷たい

## 清水都議討論 逆立ち予算に反対



討論する清水ひで子都議。8日、都議会特別特別委

日本共産党の清水ひで子東京都議は8日の都議会特別特別委員会で、2011年度都一般会計予算案、中央卸

売市場会計予算案など11議案に反対し、市場会計予算案から豊洲移転関連経費21億円余を削除する日本共産党提案の修正案と予算編成替えを求める動議に賛成する討論を行いました。清水氏は一般会計予算案について、外郭環状道路や中央環状品川線などゼネコンが潤う大型開発中心の総額1兆円以上にのぼる投資型経費を計上する一方、福祉や暮らしの予算は部分的な拡充はあるものの、43福祉事業の廃止・終了や13年間で最低の教育費、中小企業予算の400億円削減など全体は冷たく抑える「逆立ち予算だ」と批判しました。石原都政が12年間で老人福祉手当や老人医療費助成、特別養護老

人ホームの用地費助成など都単独事業を切り捨てた結果、歳出総額に占める老人福祉費の割合は全国最下位に転落したことを批判。質疑を通じて東京の介護施設の深刻な事態が浮き彫りになったと指摘するとともに、石原慎太郎知事と与党も「老人福祉費を削りに削ってきた事実を否定できなかった」と強調しました。

都が調査らしい調査もせずに築地市場の移転予定地(江東区豊洲)の土壌汚染が地下の有楽町層内部までは

広がらないなどとしていることについて、東京ガス田町工場跡地(港区)では都が「不透水層」だと繰り返しきた地下の有楽町層

内部のシルト層などで環境基準を超える汚染値が確認されたと指摘。「同じ一続きの有楽町層で、田町と豊洲でこのような違いがあ

るはずがない。田町の現場での調査結果を重視し、調査をやり直すべきた」と求め、移転強行に反対しました。また、水道事業会計

で必要のない八ツ場(やんば)ダム建設関連予算や国際水ビジネスに乗り出そうとしていることをあげ、反対を表明しました。